

河口地区 地区防災計画

2018年

○河口地区の特性

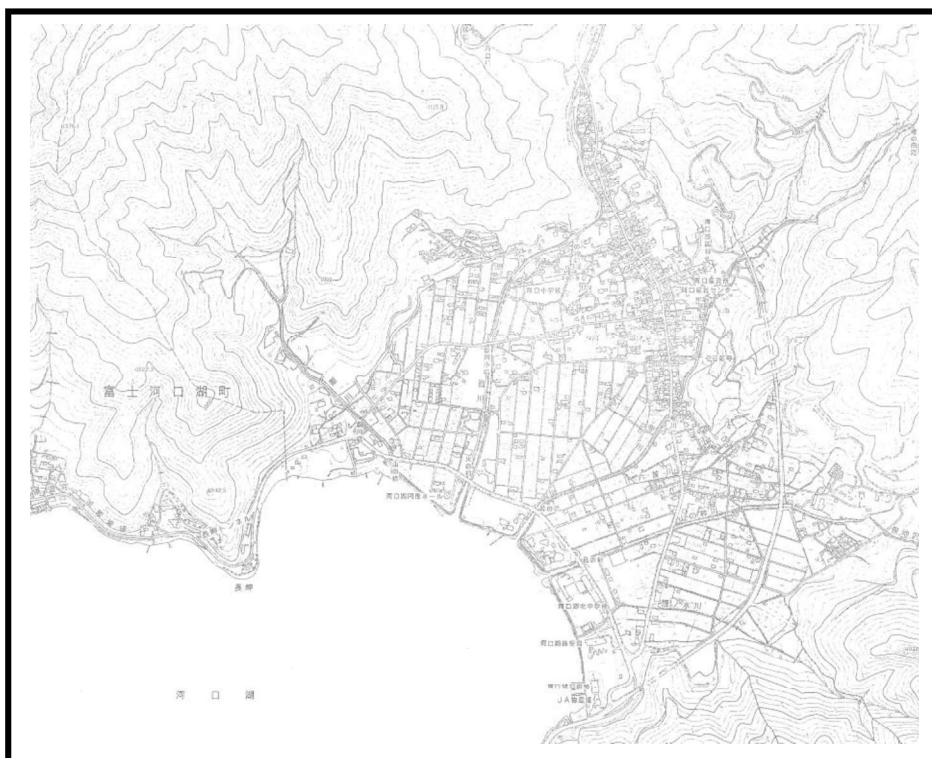
河口地区は、御坂山系の麓に位置し、地域内には山ノ神川、寺川、西川、梨川、六首川と複数の河川が流れている。山と湖の恵みを受けた豊かな土壌がある地域であり、縄文時代からこの地区には人が住み着いていたことが分かっている。急峻な御坂山系と河口湖の間に位置しているため、御坂山系に降り注いだ雨が河口湖に流入する場所に位置しており、土砂災害に襲われた歴史もある。

歴史を紐解くと、奈良時代頃の遺跡にも土砂災害が発生した痕跡も残っており、古代から水害に悩まされてきたことが想像される。また、河口湖の水位は現代よりもかなり高く、「渡船場」と呼ばれている場所が住宅地の中ほどに位置していることから湖の大きさを想定することができる。河口湖の水位調整が可能となったことにより、豊かな土壌が生み出され農業が発展し、湖畔沿いの干拓事業や道路整備により観光地としての色合いも強くなっている。

山梨側で最後の富士山噴火となった「貞観噴火」を鎮めるために奉られたとされる、河口浅間神社を中心に発展してきた地域であり、富士山の歴史とともに歩んできた地区ともいえる。古くは、御坂峠を越えて富士山を目指す方々の宿場町とされてきた。富士信仰では、富士登山のお手伝いをする方々を「御師(おし)」と呼んでおり、最盛期には120軒もの御師が河口地区にいたとされている。街道から横道を入り川で褌をして宿舎に入る形式が一般的であったことから、現在も人工的に流れが作られた呑川が流れている。モータリゼーションの発展等から富士登山も5合目から登山することが主流となり、現在は宿場町としての位置づけは無くなっているが、歴史と伝統のある河口浅間神社が地域の中心であることは今も変わらない。「住めば氏子」という考え方が定着しており、地域が一体となったお祭りも行われている。

一方で水害には現代になっても襲われており、昭和57年58年には、土砂災害・洪水災害が発生している。特に昭和58年の災害では、寺川に流れた流木が橋梁に掛かったことが主な要因となり多くのエリアが被害を受け六首川では尊い人命も失った。

自然豊かな河口地区は、自然災害に近い地区とも言える。



○河口地区の強みと弱み

河口地区の特性を背景として、地区の強み弱みを整理すると次のようになる

地域の日常的な強み	地域の日常的な弱み
<ul style="list-style-type: none"> ・近所付き合いなどの地域内での繋がりが強い ・様々な業種の人々が地区内にいる。重機等を持っている人がいる ・地域を支える自主的なグループがある。(お茶飲み会、無尽会、河口浅間まちづくりの会 etc...) 	<ul style="list-style-type: none"> ・移住者が多く、組に入っていない人など、地域との繋がりが薄い人達がいる。 ・高齢者が多い。
地域の防災に係る強み	地域の防災に係る弱み
<ul style="list-style-type: none"> ・消防団の活動が活発 ・過去に災害を経験している ・地域の団結力が強く、安否確認がしやすい関係性がある ・整備された新たな道路や山道など地域外への避難路が多くある ・災害時の協力隊がいる ・ドクターヘリが降りる場所がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・過去に災害を経験しているにも関わらず、具体的な土木工事等の改善があまりされていない ・重機があっても具体的にどこに、どのくらいあるのか分からない ・防災訓練への参加者が少ない。参加する人がいつも同じ人になってしまう ・「組」と実際に居住している地域がリンクしていない ・防災行政無線が聞き取りづらい ・地域が広く、川や急峻な山など危険箇所が多い

河口浅間神社を中心に地域活動が行われていることもあり、地域のつながりが強い地区である。トンネルやバイパス道路などの整備が進められたことから、生活環境が向上し、住宅も増加傾向にあり新たな居住者が増えている。一方で移住された方が増えてきていることから、地域内のコミュニケーションが薄れつつあるといった課題も残る。

防災面で見ると地域のつながりが強いことから、安否確認はしやすい関係性が構築されている。また、消防団活動が他地区に比べて活発に行われており、地域住民と消防団が近い場所にある。これは、過去の災害において消防団として活動された経験のある方が地域に多くいることも要因となっており、消防団の必要性が地域内で共有されている。インフラ面では、新たな道路・トンネルが整備されたことから避難路として使える路線も多くあり、災害時には有効に機能することが期待される。今後は、こういった地域の防災活動をより向上させるために、防災資源の整理や一人ひとりの防災意識の向上が期待される。



○個別課題と強化課題

§ 個別課題

河口地区の地域特性や地区の強み弱み等から次の3点が課題とされる

「安否確認の具体的な方法」

「地区外への避難のための仕組みづくり」

「地区の防災活動と消防団の協力関係の具体化」

◆安否確認の具体的な方法

安否確認は、「災害時に地域から一人も犠牲者を出さない」の考え方で行う

○目標 「地域内の安否確認100パーセントを目指す」

- ・自治会だけでなく「向こう3軒両隣」のグループを作る
- ・日常的なご近所づきあいを強化する
- ・安全な安否確認のためマニュアルを作る

安否確認は、どこに救助しなければならない方がいるかを地域内で共有するために行うこととする。特に避難行動要支援者の方は、地域で守らなければならない。災害時には個人情報にこだわらずに地域で情報を共有し、被害者を出さないことを第1優先として取り組む。安否確認のために危険な場所へ入るようなことはあってはならない。タオルや旗の掲示ではなく、防犯面も考慮した中で避難完了を知らせることができるような方法を検討する必要がある。ご近所のグループ内では各家族の避難状況も把握することが望ましい。メールなどの情報伝達手段も活用した安否確認を行う。

◆地区外への避難のための仕組みづくり

地区外への避難は迅速に混乱しないように実施する

○目標 「スムーズに地域外へ避難する」

- ・交通集中による交通渋滞を発生させない
- ・早めに避難行動する

避難行動は早めに行うことが最も重要である。災害は発生してからでは避難できなくなる恐れもある。正しい情報を迅速に入手して、早めの避難行動を心がける。行政にはCATVなど幅広く住民に周知できる方法により避難情報を速めに出すことを強く要請する。河口地区の広域避難先は、南岸の船津地区もしくは小立地区になるため大石地区からの避難者も考慮して避難ルートを考える。早めに避難することでゆとりある避難ができ、交通集中による渋滞も回避できる。ご近所のグループでは、自家用車の乗り合い避難や避難行動要支援者と一緒に避難する。

◆地区の防災活動と消防団の協力関係の具体化

消防団と地域が協力した防災活動に取り組む

○目標 「円滑な消防団活動による地域防災力を高める」

- ・消防団が活動しやすいように地域で協力する

消防団活動が円滑に進められるように地域で協力できる企業や外国人対応ができる方などをリスト化して事前に提供しておく。消防団員の家族は、ご近所グループと一緒に避難するなど地域全体で守る。行政に対しては、消防団の器具等の整備充実について地域からも要望する。

§ 強化課題

今後強化していかなければならない課題は次のとおりとする

「地域の防災資源の確認」

「防災活動への参加者を増やす仕組みづくり」

◆地域の防災資源の確認

地域内にある災害時に利用できる資源を整理しておく

○目標 「地域で利用できる防災資源を把握する」

- ・重機など地域内にある防災資源をあらかじめ把握しておく

災害には地域全体で立ち向かう必要があるため、災害発生時に地域を守ることができる資源をあらかじめ把握しておくことが重要となる。特に救助時など人力では対応できないことも想定されるため、地域内にある重機などは地域で把握しておく。

◆防災活動への参加者を増やす仕組みづくり

災害に強い地域づくりのため一人ひとりの防災意識の向上が求められる

○目標 「防災意識の向上と地域内の顔の見える関係を構築する」

- ・防災訓練の参加者を増やすための魅力を作る
- ・お祭り、イベントなどの魅力を高め日ごろから顔の見える関係性を構築する

防災について一人ひとりが意識を高めることが求められる。防災訓練に参加しやすい環境や訓練の内容を工夫することで訓練自体を魅力的なものとする。HUG(避難所運営ゲーム)や簡単な防災グッズのプレゼントなども検討する。地域内の社会関係を強固なものにするために神社のお祭りや各種イベントでも防災について知っていただく工夫も必要。中高生の活躍の場も設けるなど幅広く地域住民が防災に携わる環境を整える。

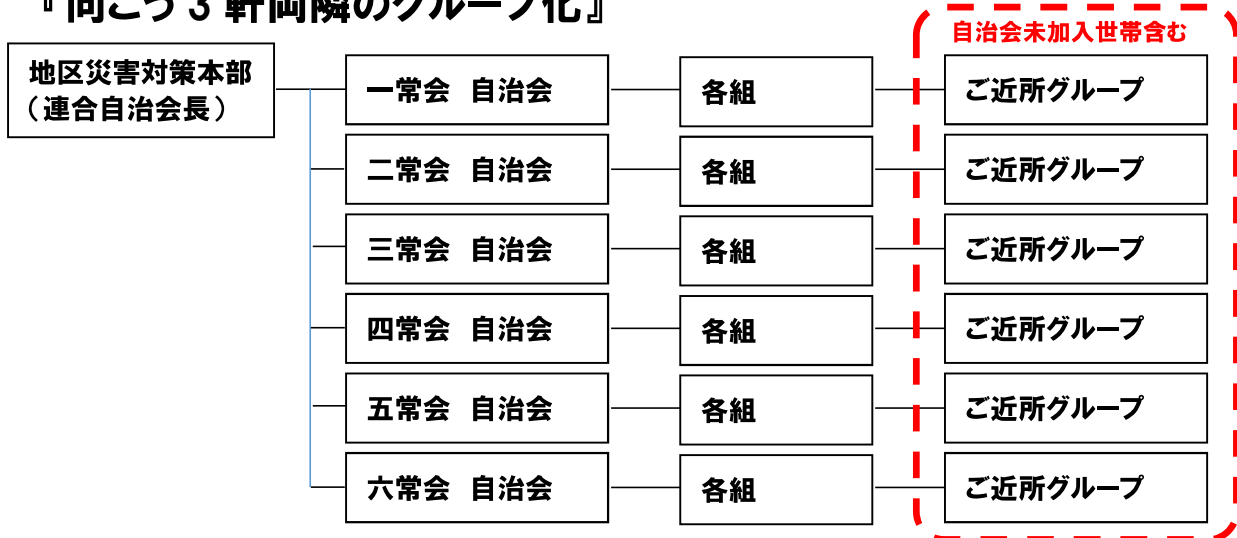


○個別課題への対応

個別課題の整理により出された課題への対策は、次のとおりとする。

◆安否確認の具体的な方法

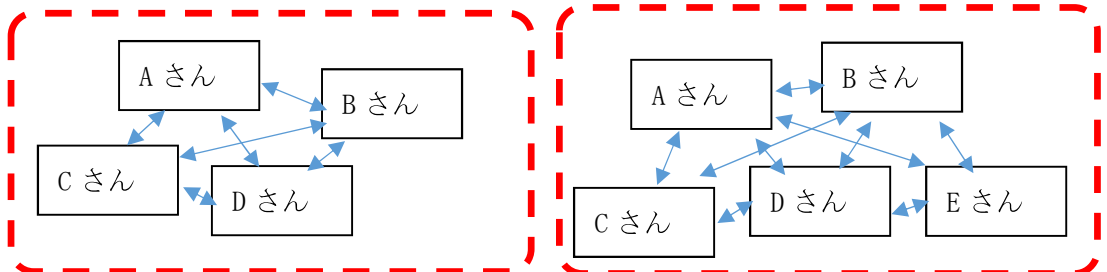
『向こう3軒両隣のグループ化』



※自治会長、組長にだけ負担をかけるのではなく、自治会や組の共通した情報とする

【グループ化の方法】

- ・災害発生前から3軒～5軒のグループを決めておく
- ・グループ内にはリーダーは作らずお互いに情報共有する形式を取る
- ・避難行動要支援者がグループ内にいる場合は民生委員とも連携する



【グループ化の明示】

- ・自分の家族がどのグループに所属するのは各自が把握しておく
- ・決定したグループは出張所、自治会で把握し、防災マップに明示しておく

【イメージ】



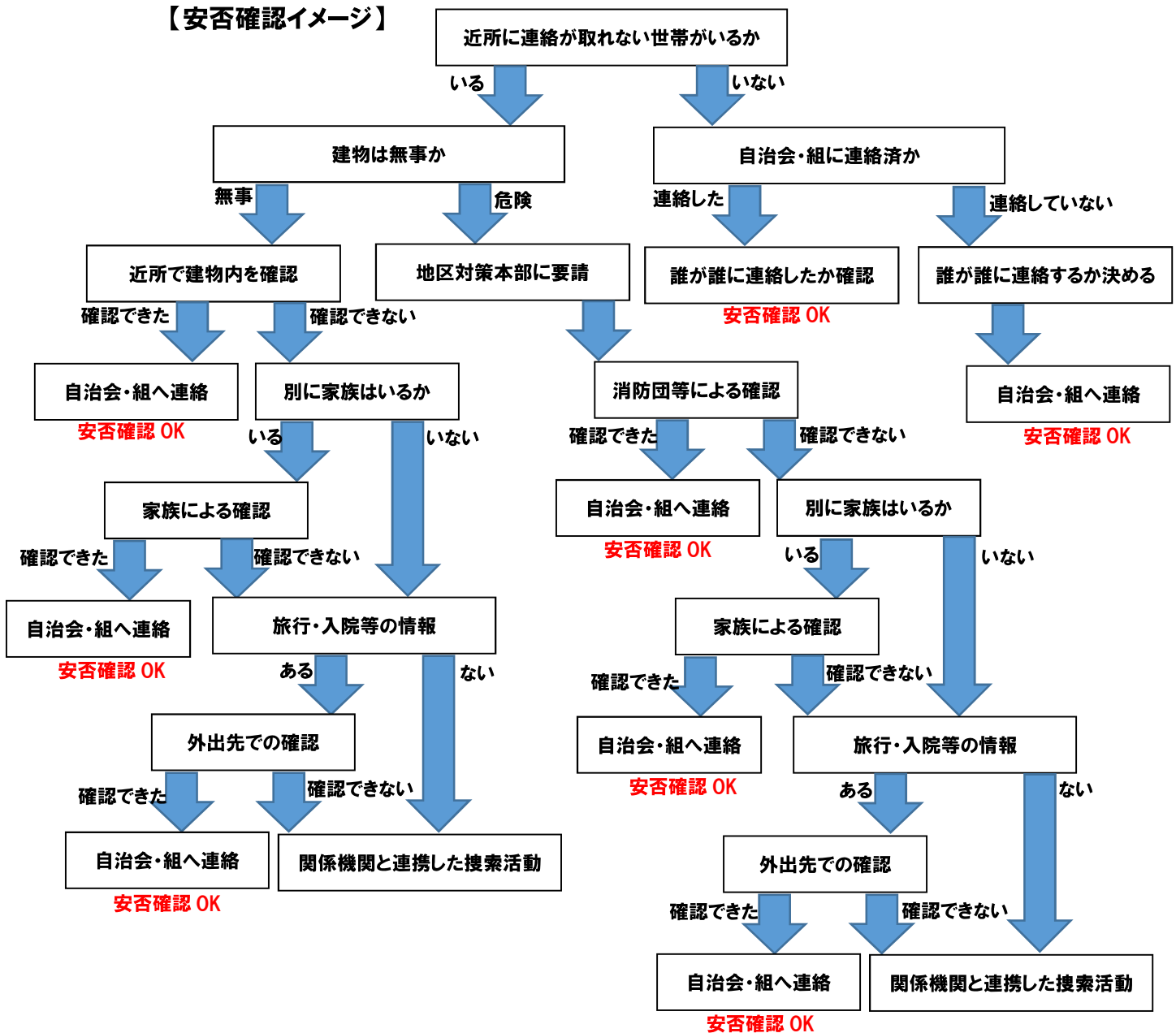
『日ごろからのご近所付き合いの強化』

- ・災害時には顔の見える関係性が重要
- ・日ごろからのご近所付き合いを強化することで災害時の安否確認につなげる
- ・一人ひとりが公民館活動などの地域活動に積極的に参加する



『安全な安否確認のためマニュアルを作る』

- ・災害時には正確で迅速な情報が命を守ることにつながる
- 【安否確認イメージ】



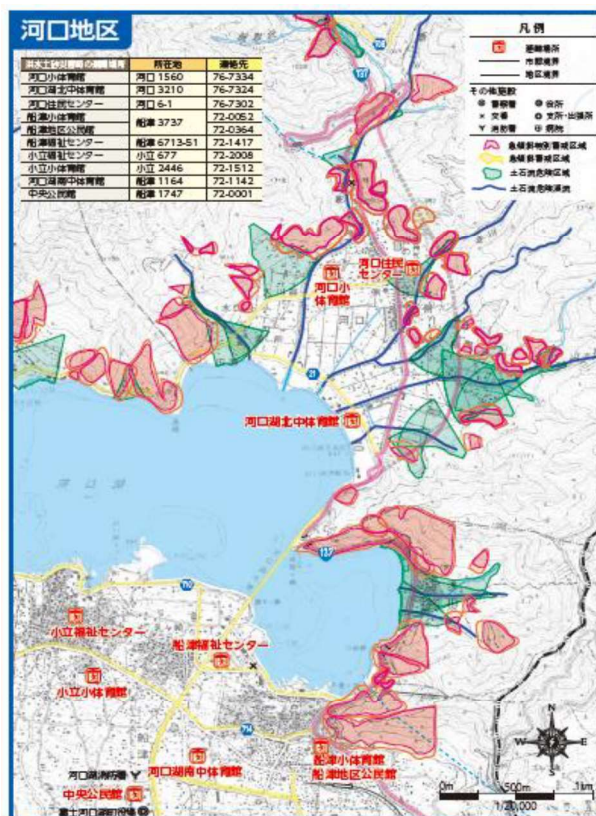
◆地区外への避難のための仕組みづくり
『交通集中による交通渋滞を発生させない』

条会名	集合場所	地区内避難場所
一常会エリア	巽駐車場	河口地区センター 河口小学校 河口湖北中学校
二常会エリア	公民館第2分館	
三常会エリア1	ハッピードリンク自動販売機前 西川小橋東 まんがの家	
三常会エリア2	浅間神社前交差点角 多目的広場	
四常会エリア	中村米治宅前 旧健康センター	
五常会エリア	宮下宗一郎宅前 腰原板金	
六常会エリア	内藤宏宅前	

【地区外への広域避難】

- ・河口地区外へ避難する場合は、開設している避難所を確認してから避難
- ・大石地区、浅川地区の被害状況も踏まえ、もっとも安全な避難ルートを選択
- ・交通集中による渋滞を避けるためできるだけ乗り合わせて避難する
- ・避難行動要支援者についてはご近所グループと民生委員が協力して対応する

地区名	避難場所
船津地区	中央公民館 船津小学校 町民体育館 河口湖南中学校
小立地区	小立福祉センター 小立小学校
勝山地区	勝山ふれあいセンター 勝山小中学校



※あらかじめ防災マップ、土砂災害ハザードマップを確認しておくこと

※災害の規模により開設される避難所は異なる

『早めに避難行動する』

- ・町災害対策本部より発令される避難情報には敏感に反応し、早めに行動する
- ・実際に災害が起きない場合もあるが空振りを恐れず早めの対応に心がける
- ・災害発生後の避難は危険を伴うことを認識しておくこと

避難情報	状況
避難準備情報 高齢者等避難開始	災害の可能性があり、避難準備が必要な場合 ○避難準備を整えましょう。 ○避難に時間を要する方は支援者と一緒に避難を開始しましょう。 ○高齢の方、心身にハンディキャップのある方、乳幼児等は避難開始。
避難勧告 【避難を開始】	災害による被害が発生する可能性が高まった場合 ○速やかに避難しましょう。 ○外に出ることが危険な場合は、近くの安全な場所または自宅内の安全な場所に避難しましょう。
避難指示(緊急) 【避難を完了】	災害が発生するなど状況が悪化し危険性が非常に高まった場合 ○緊急に避難しましょう。 ○外に出ることが危険な場合は、近くの安全な場所または自宅内の安全な場所に避難しましょう。

【避難のための日ごろの備え】

- ・避難所での生活を想定して日ごろから持ち出し品を備えておく
- ・短期間の避難が想定される場合でも非常持ち出し品を携帯すること

食料・飲料水 <ul style="list-style-type: none"> ・家族 3 日分程度を目安に ・賞味期限が切れる前に普段から使いましょう ・子供やお年寄りのいる家族は、日ごろから食べなれたものも用意しましょう 	救急品 <ul style="list-style-type: none"> ・絆創膏、消毒液、胃腸薬、風邪薬、包帯、ガーゼなど ・常備薬も忘れずに ・お薬手帳や保険証のコピー ・家族構成にあった対応をしてください 	衣類など日用品 <ul style="list-style-type: none"> ・衣類や下着 ・バスタオル ・歯ブラシ ・雨具、防寒具 ・乳児や女性など生活に合わせて必要な最低限のものを用意
照明・情報用品 <ul style="list-style-type: none"> ・携帯ラジオ ・懐中電灯 ・携帯電話のバッテリー・充電器 ・電池 ※消費期限を確認して入れ替えをしましょう 	現金・貴重品 <ul style="list-style-type: none"> ・ある程度の現金 ・印鑑、カードなど <p>※日ごろから使用するものなので、災害時に持ち出せるように用意しておきましょう</p>	防災用品 <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルメット ・ゴーグル ・軍手 など ※アウトドア用品があると避難生活にはとても役立ちます



※S58
台風災害
避難状況

◆地区の防災活動と消防団の協力関係の具体化

『消防団が活動しやすいように地域で協力する』

富士河口湖町消防団 河口分団の状況

2018 年現在

○団員数

	分団長	副分団長	部長	班長	団員	計
定数	1	1	5	11	22	40
実数	1	1	5	11	22	40

※消防団本部に河口地区より1名副団長が任命されている

○車両

車種	装備内容	台数
消防ポンプ車	BD タイプ	1
消防タンク車	泡消火用タンク車	1



※装備充実、団員の増強に向けて取り組む(定数増加も含めて検討する)

【消防団への地域の協力】

○消防団活動が円滑にできるように支援する

・災害協力隊による活動支援

消防団 OB を中心とした「河口災害協力隊」により活動を支援する

・重機等による活動支援

河口地区内の建設業者と協力し活動を支援する

・行政への整備充実の働きかけ

河口地区として消防団整備充実を町に働きかける

○消防団員家族の支援

・災害時に出勤する消防団員家族の負担軽減

家庭へ残っている消防団員の家族は地域が一体となって守る

○強化課題への対応

◆地域の防災資源の確認

『重機など地域内にある防災資源をあらかじめ把握しておく』

- ・災害時には人力では対応できない作業も発生する
- ・備蓄だけで対応するだけでなく地域にある資源を活用する



◆防災活動への参加者を増やす仕組みづくり

『防災訓練の参加者を増やすための魅力を作る』

- ・災害時の混乱を無くすため防災訓練を充実させる
- ・地区独自の訓練の開催も検討する



『お祭り、イベントなどの魅力を高め日ごろから顔の見える関係性を構築する』

- ・神社のお祭り、地区のイベントに積極的に参加する
- ・公民館活動など地域の取り組みに協力する



◆河口地区の防災資源の確認

『必要な資源を整理する』

- ①防災備蓄倉庫にあるものを確認しておく
- ②個人・企業で所有しているものをリスト化しておく
- ③地区の人的資源を把握しておく

§ 防災備蓄倉庫の確認

防災訓練時に地区役員が防災備蓄倉庫の中身をリスト化

品名	個数	備考

※不足していると考えられるものについては役場に要望する

§ 個人・企業で所有しているものをリスト化しておく

- ・必要と思われる物品を各自治会でリスト化する
※参考となる物品リストを役場より支所へ提供
- ・個人・企業へ有事の際に提供可能かアンケート調査

§ 地区の人的資源を把握しておく

- ・医師・看護師・重機操縦者・危険物取扱者・通訳を把握
- ・可能な範囲で自治会ごとにリスト化しておく

◆河口地区の防災力の向上

『顔の見える関係性を構築』

- ①地域の特色ある防災訓練の企画運営する
- ②幅広い層の防災意識を向上させる
- ③イベント等の魅力を高める

§ 河口地区公民館まつりを盛り上げる

幅広い層が参加している「河口地区公民館まつり」の参加者を増やすことで、地域のつながりを強化する。

- ⇒地区の人が実行委員会に積極的に関与する
- ⇒当日の参加者を増やすために声かけをする
- ⇒防災に関する展示等も行う



§ 河口地区の特色ある防災訓練の企画運営

幅広い層が参加できる防災訓練を企画運営する。

- ⇒河口地区独自の訓練を盛り込む
- ⇒小中学生が参加するように学校も協力する



◆消防団への協力

『地域と消防団の協力体制を強化する』

- ①消防団の活動や団員確保へ協力する
- ②消防団員家族を地域で支援する

§ 消防団員を地域で把握しておく

- ・消防団員の名簿を各自治会長が把握しておく

§ 消防団の活動を支援する

- ・専門的な活動以外は一般住民も協力する
- ・河口災害協力隊による活動支援を継続する
- ・火事を出さないことを心がける



○メモ

◆あなたの安全を守る連絡先

あなたやあなたの家族を守るためには非常時の連絡先が重要です
書き留めておきましょう

あなたのご近所グループ

住所	氏名	連絡先

あなたの家族の連絡先

名前	連絡先	その他

